

第14回 全日本民医連 共同組織活動交流集会在行われました。



全国各地でのまちづくりへの様々な取り組みが報告

9月9.10日 みなとみらいパシフィコ横浜を会場に「第14回 全日本民医連 共同組織活動交流集会」が行われ、全国の民医連共同組織（友の会や組合員）から2400名を超える参加者が集まり、テーマを7つに分け報告会を行いました。

9日の全体会では文化人類学の視点から共同組織を研究している、ワシントン大学院生のヘイムス・アーロン氏の「参加して元気、地域も元気に！人類学から見た共同組織活動」記念講演がありました。講演では病気の定義も国や地域で異なること等を身近な「肩こり」や「更年期障害」を例に報告されました。また、重大な健康リスクである「孤独」に対して「共同組織」等の社会参加が有効なであることや「共同組織」が元気の地域は、住民全体の健康向上へ良い影響があると（共同組織が元気⇒社会福祉充実へ自治体への働きかけ⇒地域福祉力向上⇒住民の健康向上）共同組織の地域における役割をお話しされていました。またリレートークでは、埼玉県では「退院予定の患者さんと地域の共同組織会員とをつなげる」ことで、退院後の在宅生活の不安を取り除く取り組み。石川県では「子育て支援サークル」や、気軽に誰でも立ち寄れる「cafe」を運営する等、自分達だけでなく、地域にとって無くてはならない場所へと共同組織が進化している様子が紹介されました



うしおだグループと市民の健康サポート教室

次回テーマは田中重孝 理学療法士の

「理学療法士が教えるリハビリと介護予防のお話  
～知って良かったリハビリ最前線～」

いつまでも元気に過ごすための3つのポイントをご紹介します。好評の体操コーナーでは小松運動トレーナーによる、転倒防止の“お守り体操”が予定されています。

日時：10月22日（月）15：00～

場所：ココファン鶴見

先着100名様 **入場無料**



生活分析から政策形成へ 河合克義・長谷川博康著

明治学院大学で「社会福祉論」「地域組織論」など長年教鞭をとってきた河合氏の近著。氏は、「社会保障・社会福祉の方向性あるいは社会的活動・運動のあり方を考える出発点は、国民が抱える具体的生活問題を把握すること」だとして、さまざまな実態調査に関わってきている調査の視点、手法、分析、政策提言いたるノウハウを1冊にまとめたもの。

「貧困」をどうとられるのかも氏の一貫したテーマでした。専門的な書ではありませんが、興味がある方挑戦してみたらどうでしょうか。



スタッフのひとこと

「地域包括ケア」「地域まるごと共生社会」という言葉には、「貧困」問題など、存在しないかのような響きを感じます。しかし、生活保護利用世帯は過去最高を更新し、生保基準の切り下げ、年金額の減額など、「貧困」問題は、より重層化し、深刻化しているように感じます。「貧困」問題は、未だに中心的政策課題のひとつでしょう。T.O

メモリーカフェ



認知症にまつわる悩み、専門スタッフに相談できます

・汐田総合病院 会場：ラウンジびゅあ（病院2階）

10月11日（木）11月8日（木）14:00-16:00

・うしおだ診療所 会場：友の会汐田・向井町支部事務所

10月11日（木）11月8日（木）13:30-15:30



We aim to build a non-discriminatory Integrated Community Care System that supports all